

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

▼全体の評価講評

▼サービス分析結果

▼利用者調査結果

▼事業者のコメント

平成17年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	阿佐谷生活園
評価機関名称	経営創研 株式会社
評価者	修了者No.H0306074 修了者No.H0304008 修了者No.H0304063 修了者No.H0304009 修了者No.H0401014 修了者No.H0307025
評価実施期間	2005年9月16日～2005年12月16日

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

特に良いと思う点

- ・サービスの持続的向上を確保するための経営改革の推進
- ・自由にモノをいえる環境、多種多彩な行事、柔軟な対応行動の重視
- ・阿佐谷生活園とクローバーの一体的運営によるサービス能力の向上と就業実態の改善

さらなる改善が望まれる点

- ・経営層と職員、職員間の意識・認識のギャップ拡大の是正
- ・3Sの徹底実行による利用者環境の改善
- ・職員等の事務作業に一定の場所を確保

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 続きを見る	
・ 個別の利用者に対する支援計画は担当する班に所属する2名の生活指導員が作成しサービ...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 続きを見る	
・ 日中活動メニューが豊富に取り入れられ、多様な個性をもった利用者それぞれに応じた活... ・ 日中活動については本人や家族等から年1回アンケートをとり、その中から希望を抽出し...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A+
【講評】 続きを見る	
・ 家庭で偏食が日常化している利用者が多いので、野菜を細かく刻みミートソースやマーボ...	

- ・ 食事に際して利用者とトラブルが起こる可能性のある特定の利用者について出来る限りト...
- ・ 当事業所での外出行事(お花見、運動会、プール日など)の時には特別メニューによる弁...

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

A⁺

【講評】[続きを見る](#)

- ・ グループ分けした各班の職員配置が複数になり職員間の連携がとりやすく、利用者のその...

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・ 月1回体重を測定し個人ケース記録に記載するほか家族等への連絡帳に健康状態を記録し...
- ・ 薬剤は事務所のロッカーに預かり、早出の職員が利用者個人別ボックスに薬剤を移し、昼...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・ 当センターでは活動に多数のプログラムを用意し、利用者の特性や嗜好を考慮して多様な...
- ・ 行事では社会見学など外出行事、宿泊旅行では臨海合宿・冬合宿・慰安旅行、地域との交...
- ・ 毎日の清掃は一日2回、午前と午後職員が行っているが、床が水分で滑るようなことが無...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[続きを見る](#)

- ・ 家族懇談会は原則として年3回、班ごとの家族者会(グループ懇談会)は年2回実施を原...
- ・ 家族等と施設間の意思疎通に関しては連絡帳や電話を利用して随時行われている。また、...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A⁺

【講評】[続きを見る](#)

- ・ 当阿佐谷生活園自体が「いたるまつり」や「チャリティーバザー」を通して情報の発信を...
- ・ 杉並区の障害者対策は他の区よりも手厚く実施している。区の障害者相談窓口を「カラフ...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちらから](#)

有効回答者数/利用者総数
13/46

1. 食事はおいしいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

2. 他の人に知られたくないことの秘密を守るなど、プライバシーが守られていますか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

3. 職員は、丁寧(乱暴な言葉を使ったり、命令したり、呼び捨てにしない)に接してくれますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

4. 職員はみんな同じようにあなたに接してくれますか(人によって言うことが違ったり、すごく厳しい人がいたりしませんか)

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

5. あなたの気持ちをわかってくれる(相談できる)職員がいますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

6.困ったことを外の人(第三者委員など)にも相談できますか

はい	4人	どちらともいえない	1人	いいえ	6人	無回答・非該当	2人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

7.活動は楽しいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

8.あなたの目標や計画について、職員はいっしょに考えわかりやすく説明してくれましたか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

9.あなたの目標や計画は、いつもあなたが納得できるものになっていますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

10.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

11.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説明、掲示など)がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

12.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】説明を聞いて、ここに通ってみようと思いましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

13.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

14.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

▼全体の評価講評

▼コメント

平成17年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	阿佐谷生活園
評価機関名称	経営創研 株式会社
評価者	修了者No.H0306074 修了者No.H0304008 修了者No.H0304063 修了者No.H0304009 修了者No.H0401014 修了者No.H0307025
評価実施期間	2005年9月16日～2005年12月16日

全体の評価講評

特に良いと思う点

● サービスの持続的向上を確保するための経営改革の推進

創業以来の理念「経験は患者を教える」を再構築し、今期、一大イベント「いたるまつり」においてパフォーマンス豊かに内外に公表した。時代の変化に対応した事業運営を心がけて、中長期経営計画の検討、目標管理や新人事評価制度の導入など先駆的な経営改革を推進中であり、サービス向上に向けた着実な努力が続けられている。経営層はこれらの過程において、一貫してリーダーシップを発揮し、経営のあるべき姿を見据えて計画の策定と実行に努め、着実な前進を続けている。

● 自由にモノをいえる環境、多種多彩な行事、柔軟な対応行動の重視

阿佐谷生活園を含めいたるセンター全体に「自由にモノをいえる環境」が堅持されており、「みんなで考え・みんなで創り・みんなで育てる」雰囲気の中で、利用者に喜ばれる柔軟なサービスと多種多様な行事を質量豊かに提供している。理屈も大事だがまずやってみようという柔軟な対応行動が重視されている。例えば、食堂は対面型カウンター方式を活用して職員と利用者との家庭的な一体感を作りだし、調理スタッフは利用者の食事中は食器の洗浄を行わず、共にテーブルで食事を取ることで、利用者が落ち着いて楽しみながら食事できるように配慮している。

● 阿佐谷生活園とクローバーの一体的運営によるサービス能力の向上と就業実態の改善

阿佐谷生活園とクローバーの一体的運営と、利用者を複数職員で担当する複数担当制の導入により、一人の利用者を複数で見守るサービスを強化する基盤が整った。サービスの向上には、職員の職務範囲の拡大に伴う能力向上が不可欠である。また、パートの活用と相まって毎週木曜日開催の職員会議は、全職員が参加できるようになり、職員の情報共有に効果を上げている。勤務調整がやりやすくなり、職員に研修機会を多く提供できた、土日休日などを確実に取れるようになったなど、職員の勤務実態の改善に大きな効果を上げている。

さらなる改善が望まれる点

● 経営層と職員、職員間の意識・認識のギャップ拡大の是正

昨今のもろもろの経営改革は、職員の意識を超えるスピードで実行されつつあり、職員はこの激しい経営・組織運営の変化に十分にはついていっておらず、一部の職員や家族が不安や戸惑いを感じている切実な状況がある。職員による討議・提案なども消化不良を来している。その結果、経営層と職員との間で意識・認識のギャップが拡大し、また、職員間の情報共有が十分には確保しがたい状態が生まれている。「頂上前の一休み」も含め認識のギャップを解消する工夫を期待したい。

● 3Sの徹底実行による利用者環境の改善

阿佐谷生活園は職員、利用者が一体となった活気に満ちた空間であるが、スペースが不足気味であることに加えて、多種多様なサービス提供に関連する付属資材等がふえて空間が手狭乱雑になっている。作業用の資材その他がところ狭しと積み上げられているため、利用者の作業と休憩とのメリハリをつけがたく余裕に乏しい状況を生み出している。せめて新改築するまでの間、3S(整理、整頓、清掃)を徹底して実行し、利用者、職員へより快適な空間を提供してメリハリのある生活を享受させる努力を期待したい。

- **職員等の事務作業に一定の場所を確保**

毎日の忙しい業務活動の中で整理しなければならない利用者記録等事務作業も多くある。過密気味の業務の効率的処理や改善のために、独立した職員専用空間を設置したい。職員間のフェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションの活発化による情報共有が期待される。

[このページの一番上へ](#)

コメント

評価者6名は、役割を分担しつつ情報と認識の共有に努め一貫した認識を持ってすりあわせを行った。原則として、2名以上で聞き取り、観察に努めた。事業評価については、知的障害者の視点、利用者家族の視点、現場の視点、マネジメントの視点、経営者の視点、コンサルティングの視点を設定して、視点に対応した評価者を配置して事実の掘り起こしと確認、評価に当たった。園長との面談だけではなく、常勤職員全員から直接聞き取りを行い受け止め方のズレを補正した。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

▼リーダーシップと意思決定 ▼経営における社会的責任 ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

▼計画の策定と着実な実行 ▼職員と組織の能力向上 ▼情報の保護・共有 ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成17年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	阿佐谷生活園
評価機関名称	経営創研 株式会社
事業評価実施期間	2005年9月16日～2005年12月16日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A+
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】 詳細はこちら - 創業の理念「経験は患者を教える」は、本施設の礎石に刻み込まれるなどして、39年の... - 理事長、常務理事施設長(兼阿佐谷生活園園長)など経営層は、自らの役割と責任につい... - 重要な案件のみならず、ささやかな案件などについても、経営層は進むべき方向を見定め...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている	A+
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域の関係機関との連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら - 福祉サービス向上への阿佐谷生活園の取り組みは積極的かつ柔軟である。利用者本人への... - 阿佐谷生活園として広報活動も盛んである。機関誌「いたる通信」は杉並区の区役所をは... - いたるセンターの行事は多彩である。その多くが地域に公開されて参加が歓迎されている...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】 詳細はこちら 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから - 利用者サービス向上への取り組みは温かな目線が注がれ柔軟かつ活発である。この姿勢は... - 園長は福祉問題懇談会委員として行政にも参加し、区政に反映する努力も行っている。障...	

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから - 平成10年以降、6つのグループホーム、コミュニティルームを開設し事業の規模・範囲... - ヒヤリハットや事故の報告・対策検討とは別に、毎日、08:35～16:00(時には... - 阿佐谷生活園は職員、利用者が一体となった活気に満ちた空間であるが、スペースが不足...	

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A ⁺
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	B
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから - 利用者の望む多種多様なサービスの提供に最大限の努力をしている阿佐谷生活園の姿勢が... - 昨年から阿佐谷生活園の「将来像」を具現化する主任クラス以上で構成されるプロジェクト... - 平成10年以降の相次ぐ事業の拡大、これに対応する理念の再構築、中長期の事業戦略の...	

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから - 経営情報共有に関しては、経営層により系統的努力が行われているが、数年来の事業拡大... - 本年4月施行の個人情報保護法に対する当園の対応として「個人情報保護規程」など文書...	

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 創業以来の理念「経験は患者を教える」を再構築し、今期、一大イベント「いたるまつり...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 経営改革の一環として取り組んできた人事考課制度が、目標管理とセットで本年4月導入...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 本「阿佐谷生活園」とショートステイ「クローバー」との一体的運営が昨年度開始された...	
4. 前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 職員給与のベースダウン、パートの活用等により、経常活動収入計に占める人件費比率が...	
5. 前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら 支援会議などで利用者の現状分析を行い柔軟な対応をしている。利用者の要望を受けて帰...	
【講評】 詳細はこちら - 阿佐谷生活園の基本姿勢は、創業の理念、39年に及ぶ実践を通じて獲得してきた「利用... - 阿佐谷生活園を含めいたるセンター全体に「自由にモノをいえる環境」が堅持されており... - 昨今のもろもろの経営改革は、職員の意識を超えるスピードで実行されつつあり、職員に...	評点の内容 ▶ 詳細はこちらから

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > サービス分析結果

サービス分析結果

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成17年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	阿佐谷生活園
評価機関名称	経営創研 株式会社
事業評価実施期間	2005年9月16日～2005年12月16日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】詳細はこちら - 開かれた運営を目指しており、広報誌「いたる通信」を季刊で年4回、増刊で1回、合計... - 利用希望者から見学の申込みがあったときは、利用中の人々のサービスに影響しないよう...	評点の内容 ▶ 詳細はこちら
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A ⁺
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A ⁺
【講評】詳細はこちら 入所前の体験実習のほかに、入所直前の準備実習を行うことで、これから利用する者の不...	評点の内容 ▶ 詳細はこちら
個別状況の把握・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
【講評】詳細はこちら 利用者に関する情報は、入所前の養護学校からの個別移行計画、家庭調査書等の書類をも...	評点の内容 ▶ 詳細はこちら
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
【講評】詳細はこちら - 平成17年春に個人情報保護規定を策定した。広報誌「いたる通信」に利用者の顔が特定... - プライバシーと個人の尊厳に関しては個人情報保護規定を制定したほか、阿佐谷生活園業...	評点の内容 ▶ 詳細はこちら
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A ⁺

【講評】[詳細はこちら](#)

- 業務マニュアルについては全職場から構成されたマニュアル委員会によって平成17年1...
- 利用者の安全性を配慮した取り組みに関しては、施設全体を職員の誰かの目が必ず見守っ...

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら ● 個別の利用者に対する支援計画は担当する班に所属する2名の生活指導員が作成しサービ...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 日中活動メニューが豊富に取り入れられ、多様な個性をもった利用者それぞれに応じた活... ● 日中活動については本人や家族等から年1回アンケートをとり、その中から希望を抽出し...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A ⁺
【講評】 詳細はこちら ● 家庭で偏食が日常化している利用者が多いので、野菜を細かく刻みミートソースやマーボ... ● 食事に際して利用者とトラブルが起こる可能性のある特定の利用者について出来る限りト... ● 当事業所での外出行事(お花見、運動会、プール日など)の時には特別メニューによる弁...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら ● グループ分けした各班の職員配置が複数になり職員間の連携がとりやすく、利用者のその...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 月1回体重を測定し個人ケース記録に記載するほか家族等への連絡帳に健康状態を記録し... ● 薬剤は事務所のロッカーに預かり、早出の職員が利用者個人別ボックスに薬剤を移し、昼...	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 当センターでは活動に多数のプログラムを用意し、利用者の特性や嗜好を考慮して多様な... ● 行事では社会見学など外出行事、宿泊旅行では臨海合宿・冬合宿・慰安旅行、地域との交... ● 毎日の清掃は一日2回、午前と午後職員が行っているが、床が水分で滑るようなことが無...	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 家族懇談会は原則として年3回、班ごとの家族者会(グループ懇談会)は年2回実施を原... ● 家族等と施設間の意思疎通に関しては連絡帳や電話を利用して随時行われている。また、...	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら ● 当阿佐谷生活園自体が「いたるまつり」や「チャリティーバザー」を通して情報の発信を... ● 杉並区の障害者対策は他の区よりも手厚く実施している。区の障害者相談窓口を「カラフ...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

▼調査概要

▼調査結果全体のコメント

▼調査結果

平成17年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	阿佐谷生活園
評価機関名称	経営創研 株式会社
利用者調査実施期間	2005年10月12日～2005年11月21日

調査概要

- **調査対象**: 阿佐谷生活園に通所する利用者の中から、施設サイドにおいて、評価項目について双方向の対話がある程度可能であることを基準に選定した利用者である。
- **調査方法**: いたる祭への参加、数回の園訪問を経て互いに挨拶するようになった頃合いを見計らい、10月の足かけ3日間の午後、評価者全員が適宜2名1組となって、利用者一人ずつから施設内で聞き取りを行った。利用者のペースを尊重しつつ評価員1名が質問し、もう1名が記録をとった。
- 利用者総数: 46人
- 共通評価項目による調査対象者数: 13人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 13人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 28.3%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

全利用者46名中、双方向の会話がそれなりにできるのは13名である。13名全員が現在の状況に満足しているように見える。利用者と職員の関係がフランクで自由にもの言っても叱られたりしないという「自由にモノをいえる環境」が堅持されている中で、利用者はのびのびと生活しているように思われる。設問外だが「ここに来るのが楽しい?」と聞いたら一人残らずすぐに首を縦に振って肯定した。「みんなで考え・みんなで創り・みんなで育てる」雰囲気の中で、自分らしさを受け入れてもらっている安心感を感じた。職員が創意工夫した努力が着実に届いていることをうかがわせる。なお、ヒヤリング対象とならなかった利用者については、評価調査員6名による延べ20日間以上の訪問の機会に、その表情、態度、言動から此处での生活を心から満足して楽しんでいる様子が感じられた。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 食事はおいしいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

申し分のない状況である。

2.他の人に知られたくないことの秘密を守るなど、プライバシーが守られていますか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

申し分のない状況である。

3.職員は、丁寧（乱暴な言葉を使ったり、命令したり、呼び捨てにしない）に接してくれますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

ほとんどの職員が丁寧に接してくれていると感じているが、例外があることを示している。

4.職員はみんな同じようにあなたに接してくれますか（人によって言うことが違ったり、すごく厳しい人がいたりしませんか）

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

職員は同じように接しようとしているように見える。職員と利用者の意識のズレかもしれない。

5.あなたの気持ちをわかってくれる（相談できる）職員がいますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

利用者のほとんどは自分の気持ちをわかってくれる相談員を持っている。

6.困ったことを外の人（第三者委員など）にも相談できますか

はい	4人	どちらともいえない	0人	いいえ	6人	無回答・非該当	2人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

聞き取りでは、外部の人に相談するようなことがないという状況である。

7.活動は楽しいですか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

全員が多種多彩な活動、イベントを楽しんでいる。

8.あなたの目標や計画について、職員はいっしょに考えわかりやすく説明してくれましたか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

何事であれ、職員は自分と一緒に考えてくれると感じている。

9.あなたの目標や計画は、いつもあなたが納得できるものになっていますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

私もそう思うというように喜んで受け入れている。

10.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

11.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会（説明、掲示など）がありましたか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

過去1年以内に利用を開始した利用者はいなかった。

12.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】説明を聞いて、ここに通ってみようと思いましたが

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

13.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか

はい	12人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

ほとんどの利用者は、不満、要望、なにごとであれ気軽に話せると感じている職員を持っている。

14.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

ほとんどの利用者は、不満、要望のみならず、なにごとであれ職員にきちんと対応してもらっていると感じている。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定

リーダーシップと意思決定

講評

創業の理念「経験は患者を教える」は、本施設の礎石に刻み込まれるなどして、39年の施設の歴史とともにあったことが推察される。しかし、職員、利用者、地域市民の意識の多様化・変化は、創業の理念の再構築を促し、再構築の過程では、職員一人ひとりの意見、提案を求めるなど、理念に対する職員の関心を高める努力は着実に行われている。再構築された理念は、本年9月の法人最大のイベント「いたるまつり」において発表されたが、全職員、家族等に浸透していくには今しばらくの時間と工夫を要しよう。

理事長、常務理事施設長(兼阿佐谷生活園園長)など経営層は、自らの役割と責任について規定やルールとして定める以上に、日頃の言動、現状の課題に対する対応行動をリードすることにより、現実的具体的に職員に伝えている。上記の理念の再構築、中長期の事業戦略の検討、目標管理の導入による人事評価の実施を主たる内容とする経営改革の推進において、主任以上をメンバーとするNSP(Next Stage Project)による検討・参画は、経営層の役割と責任のあり方を具体的に示している。組織の課題消化能力をオーバー気味である。

重要な案件のみならず、ささやかな案件などについても、経営層は進むべき方向を見定めつつ実情を踏まえて意思決定し、職員に周知しようと努めている。しかし、周知の不徹底が垣間見られ、事業内容、人員、勤務形態等の複雑化に対応した「洩れを起こさない周知の工夫」が必要である。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A+
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	経営層は、平成10年以降、6つのグループホーム、コミュニティルームを相次いで開設し、事業の規模と範囲を拡大してきた。この展開に対応して理念の再構築、中長期の事業戦略の検討、目標管理の導入と人事評価の実施、収支構造の改善などが、一部に痛みを伴いつつ矢継ぎ早に実施されている。この事業展開は、経営者が自らの役割を職員に伝えるにとどまるものではなく、経営者が自身の存在を賭けて推進しているものである。自分の存在を賭けているからこそ、職員に痛みを求めることもでき職員の理解も得ることができるのである。

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情をふまえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
----	---

標準項目	○	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)
 【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

講評

福祉サービス向上への阿佐谷生活園の取り組みは積極的かつ柔軟である。利用者本人への前向きで温かい対応、組織としてまた職員一人ひとりが地域社会との多くの関わりを持つ姿勢が強みである。受け入れた実習生がその後もボランティア登録者、週末の支援登録者（スタッフ）、行事ボランティアとして阿佐谷生活園との継続する関係を通して、彼（女）等に福祉サービス事業者のあるべき姿を伝え、障害者福祉を担う人材を育成している。また職員として就職希望を申し出て採用された者も少なくない。

阿佐谷生活園として広報活動も盛んである。機関誌「いたる通信」は杉並区の区役所をはじめ、多くの関係機関や支援者に広く配布されている。また、地域で取り組んでいる障害者区議会、スペシャル・オリンピックス実行委員会などに積極的に参加し、商店街等広く地域社会とのかかわりを深める努力が続けられている。区内の各種サークル活動への参加も地域のネットワークづくりに貢献している。ホームページも開設されているが、内容の継続的更新、レベルアップが期待される。

いたるセンターの行事は多彩である。その多くが地域に公開されて参加が歓迎されている。今年で30回を数えるチャリティバザー（11月3日開催）は、杉並区ほぼ全域の家庭に呼びかけて多種大量の品々を集め、超廉価で販売する恒例の一大イベントとなっている。模擬店の無料券（軽食、飲料等との交換券）を地域住民に配布して交流を深める努力も行われている。バザーは杉並区民に対し、いたるセンターを知らしめ、いたるセンターへの関心を高め、いたるセンターが地域に対し透明性の高い組織になることに多大な効果を発揮している。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目		福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している
		全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者評価の導入・外部監査、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A	
標準項目		第三者評価・外部監査の実施など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
		透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-1-3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点	A+	
標準項目		実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている
		効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している

A+の取り組み	実習を契機にして、実習後も「いたる通信」を送るなどによる関係継続に止まらず、「ボランティア登録、週末支援スタッフ（グループホームなどを補助）、豊富な行事のボランティアへ誘導」し、阿佐谷生活園をはじめとするいたるセンターへの関心を持続的に高めて、日常的計画的協働を組織している。このような継続的なかわりとの持続的協働を通じて、将来の障害者福祉を担う実践の人材を育成している。
---------	---

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A
標準項目	○ 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など） ○ 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている
A+の取り組み	

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A
標準項目	○ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している ○ ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など） ○ ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み	

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A
標準項目	○ 地域の関係機関のネットワーク（事業者連絡会など）に参画している ○ 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > [利用者意向や地域・事業環境の把握と活用](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

講評

利用者サービス向上への取り組みは温かな目線が注がれ柔軟かつ活発である。この姿勢はいたるセンター全体の文化として引き継がれ定着している。利用者意向は日常のふれあいを通して、また、グループ活動アンケート、嗜好調査、家族等との懇談会、個別面談など多面的角度から利用者本人の意向をしっかりと把握しており、事業計画や個別支援計画に反映されている。全利用者の楽しみとなっている慰安旅行では複数案を提案し利用者の意向を最大限に尊重している。

園長は福祉問題懇談会委員として行政にも参加し、区政に反映する努力も行っている。障害者雇用支援事業団の雇用支援ネットワークや「勝手に勉強会」等の各種ネットワークや連絡会等には職員も参加している。地域の福祉ニーズや情報を収集し阿佐谷生活園としての視点を加えて職員と共有しようと努めている。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A
標準項目	☐ 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	☐ 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	☐ 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	☐ 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A
標準項目	☐ 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	☐ 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	☐ 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

講 評

平成10年以降、6つのグループホーム、コミュニティルームを開設し事業の規模・範囲を拡大してきた。規模の拡大や多様化に対応して全職員参加型の課題の抽出、検討、計画化が行われ、堅実な実行促進に取り組んでいる。これは39年に及ぶ事業活動のノウハウを見直し、事業運営に活かそうという取り組みでもある。様々な委員会による活動、理念の再構築、中長期の事業戦略の検討、目標管理の導入、人事評価の実施など経営改革推進において主任をメンバーとするNSP(Next Stage Project)による検討が行われている。

ヒヤリハットや事故の報告・対策検討とは別に、毎日、08:35～16:00(時には17:00)の間、5つの時間帯に分けて、本施設の園庭・ホール・3階～JR阿佐ヶ谷駅までに職員を配置し、園生の安全確保の見守り・ホームへの送りの支援が職員配置表により計画的に実施されている。リスクマネジメントについては、主任を中心に5人のメンバーによる委員会が本年4月設置され、ヒヤリハット事例の収集など計画的実践的な取り組みが始まっている。これによりノウハウが確立され、再発防止・予防対策に効果をあげることが期待される。

阿佐谷生活園は職員、利用者が一体となった活気に満ちた空間であるが、スペースが不足気味であることに加えて、作業用の資材その他がところ狭しと積み上げられているため、利用者の作業と休憩とのメリハリをつけがたい状況を生み出している。1階ロビーが混雑する主因となっている。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A
標準項目	☐ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	☐ 年度単位の計画を策定している
	☐ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A
標準項目	☐ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	☐ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	☐ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)をふまえて策定している
	☐ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)をふまえて策定している
A+の取り組み	

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	☐ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	☐ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	☐ 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
標準項目		利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
		発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
		再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 職員と組織の能力向上



職員と組織の能力向上

講 評

利用者の望む多種多様なサービスの提供に最大限の努力をしている阿佐谷生活園の姿勢がうかがえる。多様なサービスを支えるのが職員のモチベーションとスキルであり、その向上のために各担当者の業務調整をして積極的に研修会等に参加している。昨年度から研修会への職員の参加回数は増えているが、それを可能にした主因が併設するショートステイとの一体的運営である。

昨年から阿佐谷生活園の「将来像」を具現化する主任クラス以上で構成されるプロジェクト（＝NSP）が発足し定期的な会合が開催されている。これらの会合を持つことにより、単なる知識やスキル以上の、施設経営の当事者意識の醸成、マネジメント能力の向上、利用者満足、事業経営に関する実践的な知見の向上による組織力の向上・発揮に取り組んでいる。また各種委員会活動、目標管理による目標達成と動機づけなど全職員参加型の取り組みによる能力の向上発揮が日常的に推進されている。

平成10年以降の相次ぐ事業の拡大、これに対応する理念の再構築、中長期の事業戦略の検討、目標管理の導入と人事評価の実施などが矢継ぎ早に実施されている。この過程では職員の参画、意見の聴取など職員の意向を吸い上げる努力が確に行われているが、外部環境の急激な変化も相まって、職員はこの激しい経営・組織運営の変化に十分にはついていっておらず、一部の職員や家族が不安や戸惑いを感じている切実な状況がある。自由にものをいえる環境を活かして、意識改革と育成計画の確立が期待される。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A ⁺
標準項目	○ 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している
	○ 事業所が必要とする人材をふまえた採用を行っている
	○ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A ⁺ の取り組み	人員配置基準（利用者7. 4対職員1）に対し、阿佐谷生活園のみでも8名を配置（利用者6. 5対職員1）し、厚い職員配置を実現している。加えて、ショートステイ（宿泊4＋昼間2）へ配置の職員5名との一体的運営により、デイサービスとショートステイの2事業をシフトで担当する職務の拡大・充実を実践している。職員の幅広い視野、情報の共有、利用者満足への熱い情熱と明確な方針があってこそ可能な取り組みである。一体的運営は昨年度始まったばかりである。一体的運営について、よりいっそうの習熟によるレベルアップが期待される。

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	B
標準項目	○ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	✕ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成（研修）計画を策定している
	✕ 個人別の育成（研修）計画をふまえ、OJTや研修を行っている
	○ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	○ 職員の研修成果を確認し（研修時・研修直後・研修数ヶ月後など）、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A ⁺ の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
----	---

標準項目	○	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	事業所の特性をふまえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 情報の保護・共有

情報の保護・共有

講 評

経営情報共有に関しては、経営層により系統的努力が行われているが、数年来の事業拡大、各種の経営改革の推進の中で、「十分な情報共有が行われている」とはいいがたい状況にある。内外の変化が激しく職員の意識がついていけないこともあるが、職員に日報などの書類の作成や簡単な打ち合わせを行う等のための独立した専用空間がないことも大きな要因である。独立した職員専用空間を設置し、職員間のフェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションの活発化による情報共有が期待される。

本年4月施行の個人情報保護法に対する当園の対応として「個人情報保護規程」など文書類の整備を完了し、外部講師による研修も主に行われている。とはいえ運用はこれからである。保管されている情報を必要とする担当者が利用しやすいファイリング方法や更新書類の保管期限、廃棄方法など研修活動や事例などからノウハウを吸収して改善する仕組みづくりを期待したい。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 情報の重要性や機密性をふまえ、アクセス権限を設定している
	○ 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	○ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨をふまえて保護・共有している

評点	A
標準項目	○ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	○ 開示請求に対する対応方法を明示している
	○ 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > カテゴリー1～7に関する活動成果

カテゴリー1～7に関する活動成果

講評

阿佐谷生活園の基本姿勢は、創業の理念、39年に及ぶ実践を通じて獲得してきた「利用者に喜ばれる柔軟なサービスと多種多様な行事を質量ともに豊かに提供していく」ことにある。この姿勢を前提として、取り組むべき課題は何かについて職員に意見を求め考えさせて具体化しようとする点に大きな特色がある。理屈も大事だがまずやってみようという柔軟な対応行動が重視されている。昨年よりも今年、先月できなくても今月からこれに取り組もうとする改善課題へ汗と知恵を結集する積極的姿勢が伺える。

阿佐谷生活園を含めいたるセンター全体に「自由にモノをいえる環境」が堅持されており、「みんなで考え・みんなで創り・みんなで育てる」雰囲気育ててきた。また、「明るい応接と前向きな姿勢」に徹して知的障害者をもつ家族の心の支えになるように心がけている。昨年度より取り組んでいる目標、すなわち 24時間365日のサービスを提供できる体制作りの取り組みはその好例である。

昨今のもろもろの経営改革は、職員の意識を超えるスピードで実行されつつあり、職員による討議・提案などが消化不良を来している。その結果、経営層と職員との間で意識・認識のギャップが拡大し、また、職員間の情報共有が十分には確保しがたい状態を生み出している。「頂上前の一休み」も含め認識のギャップを解消する工夫を期待したい。

[このページの一番上へ](#)

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A ⁺
改善の成果	創業以来の理念「経験は患者を教える」を再構築し、今期、一大イベント「いたるまつり」においてパフォーマンス豊かに内外に公表した。各種委員会、グループによる現場における個別事業計画案の作成、新年度に向けた事業計画準備委員会による意見集約など、職員等の意見を踏まえて、年度計画が策定されている。経営層は前年度を振り返り評価すべき点、改善すべき点等を客観的に分析し、新年度の目標を設定し着実に実行している。時代の変化に対応した事業運営を心がけて先駆的な経営改革を推進中であり、着実なサービス向上を図っている。経営層はこれらの過程において、一貫してリーダーシップを発揮し、経営のあるべき姿を見据えて計画の策定と実行に努め、着実な前進を続けている。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A ⁺
改善の成果	経営改革の一環として取り組んできた人事考課制度が、目標管理とセットで本年4月導入された。本人事考課制度は、本人がまず設定した上で上司とすり合わせて設定する目標を40%のウエートで取り込んでいる。本年度上期の経過は、目標管理が職員個人の目標達成を動機づけて能力を向上する仕組みとして機能してきていることを示している。目標を設定する過程で、上司との面談を通じて阿佐谷生活園の経営課題とすり合わせ、本人への期待が表明されている。また共通の目標課題を設定した職員をグループ化して業務改善を進めていく仕組みとして展開されており、改善のスピードが上がると思われる。また、一体的運営や複数担当制は、職員の職務範囲を拡大し質的向上を求めるものである。一体的運営や複数担当制の効果的運用には、職員の一層の能力向上による組織対応能力の向上が不可欠である。

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」

評価	A ⁺
改善の成果	本「阿佐谷生活園」とショートステイ「クローバー」との一体的運営が昨年度開始された。本年4月、班編成を8班体制から6班体制に変更し、併せて利用者を複数職員で担当する複数担当制が導入されている。複数担当制の導入により、毎週木曜日開催の職員会議は、パートの活用と相まって、全職員が参加できるようになり、職員の情報共有に効果を上げている。また、勤務調整がやりやすくなり、職員に研修機会を多く提供できている。土日休日などを確実に取れるようになったなど、職員の勤務実態の改善に大きな効果をあげている。一体的運営や複数担当制によるサービスの向上には、職員の職務範囲の拡大と質的向上による確実安全なサービスの確保が前提であり、不安を残している一部職員の意識改革、職務遂行レベルの向上、運用面の習熟が必要である。

このページの一番上へ

8-4-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

評価	A ⁺
改善の成果	職員給与のベースダウン、パートの活用等により、経常活動収入計に占める人件費比率が3%強の削減、金額で2百万円強の低減(予算ベース)している。外部委託を受ける作業量を増やし総収入をあげ、また工賃収入も5%改善している。障害者の福祉制度が大きく変わろうとしているが、障害者が自力で少しでも多くの収入を得る仕組みづくりに経営層の一層の努力を期待したい。

このページの一番上へ

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

- ・カテゴリ3:「利用者意識や地域・事業環境などの把握」

評価	A
改善の成果	支援会議などで利用者の現状分析を行い柔軟な対応をしている。利用者の要望を受けて帰路JR阿佐ヶ谷駅までの送迎を始めて現在4名が利用している。利用者サービス向上のため4時以降の時間延長にも対応している。利用者の苦情、意見、要望等を吸い上げる目安箱については、投函しやすいような位置に設置場所を変更した。また地域・事業環境の把握等の面では、常務理事・施設長が区の障害者福祉問題懇談会委員として参加、障害者雇用支援事業団の雇用支援ネットワークへの参加、職員の「勝手に勉強会」等各種連絡会へ参加など、日々の活動を通して情報収集に努めている。

このページの一番上へ

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービス情報の提供



サービス情報の提供

講評

開かれた運営を目指しており、広報誌「いたる通信」を季刊で年4回、増刊で1回、合計5回を発行し、行政（杉並区内施設や関係先）はもちろん、退所者にも発送している。編集には職員が自主的に参加しており、いたるセンターの理解者・支援者を増やす努力をしている。杉並区が関連の学校や家庭に配布する「障害者の手引き」にも掲載され、利用の可能性のある人々に情報が届けられている。

利用希望者から見学の申込みがあったときは、利用中の人々のサービスに影響しないよう、不在の時間帯に来てもらって職員が説明を行っている。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	 利用者の問い合わせや見学（可能な場合）の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの開始・終了時の対応



サービスの開始・終了時の対応

講 評

入所前の体験実習のほかに、入所直前の準備実習を行うことで、これから利用する者の不安やストレス軽減に役立っている。また、10月の「いたるまつり」や11月の30年の歴史がある大「チャリティバザー」はいたるセンターの活動の側面を余すところなく伝え、利用予定者が自然に雰囲気馴染めることに役立っている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A ⁺
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している ○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている ○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	・養護学校の生徒(2、3年生)の体験学習を年間を通して受け入れているが、新年度に入所決定している利用予定者については、施設側からお願いして入所直前に一週間以上の実習をするようにしている。このサービス開始前の準備期間の活用は利用者・家族等と施設側とのコミュニケーションの向上と双方当事者の情報把握に役立っている。

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A ⁺
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している ○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している ○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている ○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	・養護学校からの個別移行計画、阿佐谷生活園独自に聴き取り調査した家庭調査書から利用者の支援に必要な個別事情や要望を把握し記録している。サービス終了時には終結記録を記載し、退所後も広報誌「いたる通信」により行事の案内を行っており、実際に卒園生の行事参加は多い。「いたるまつり」や「バザー」はもちろん、「慰安旅行」にも参加を望む卒園生には門戸を開いている。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)
[サービス分析結果](#)
[利用者調査結果](#)
[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 個別状況の把握・記録

個別状況の把握・記録

講 評

利用者に関する情報は、入所前の養護学校からの個別移行計画、家庭調査書等の書類をもとに入所時と、その後は毎年5月に個別支援計画を作成している。
支援計画策定のために行われる面談は、利用者本人、家族等と職員との三者面談を原則としているが、事情によっては二者面談となるケースもある。支援計画の見直しは必要のつど、支援会議で実施している。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A	
標準項目		利用者の身体状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
		利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
		アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A	
標準項目		計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
		計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
		計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
		計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A	
標準項目		利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
		計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A	
標準項目		計画の内容や個人の記録を、関係する職員すべてが共有し、活用している
		申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

講評

平成17年春に個人情報保護規定を策定した。広報誌「いたる通信」に利用者の顔が特定されるような写真を掲載する場合は利用者と家族等からの承諾を得て実施している。

プライバシーと個人の尊厳に関しては個人情報保護規定を制定したほか、阿佐谷生活園業務マニュアルの中の施設職員心得（行動規範）の禁止事項第3項に利用者に対するプライバシーの侵害について詳細に規定して注意を促している。なお、入浴や排泄等の介助に当たっては同性介護を実施している。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	☐ 利用者について他機関へ照会する際、利用者の承諾を得るようにしている
	☐ 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
	☐ 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	☐ 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している（利用者が「ノー」と言える機会を設けている）
	☐ 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	☐ 虐待被害にあった利用者がある場合には、必要に応じて関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	☐ 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 事業所業務の標準化



事業所業務の標準化

講 評

業務マニュアルについては全職場から構成されたマニュアル委員会によって平成17年11月に完成したばかりであるが、見直しのための読みあわせを行っている最中である。
毎週木曜日に開催される職員会議等でさまざまな問題が話し合われ、その記録が作成され配布されている。勤務体制などの都合で出席できなかった職員も情報を共有できる体制が取られている。

利用者の安全性を配慮した取り組みに関しては、施設全体を職員の誰かの目が必ず見守っているようにしている。この仕組みは「時間帯別配備表」、すなわち「安全のための時間帯別の職員配置表」として事業所必須の「見守り制度」となっている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A
標準項目	☐ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	☐ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	☐ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	☐ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A
標準項目	☐ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	☐ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	☐ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A ⁺
標準項目	☐ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	☐ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している

A+の取り組み	○	職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	○	職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	○	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
	・毎日、08:35～16:00(時には17:00)の間、5つの時間帯に分けて、本施設の園庭・ホール・3階～JR阿佐ヶ谷駅まで職員を配置し、園生の安全確保の見守り・ホームへの送りの支援が計画され実施されている。この仕組みは、「安全確保のための時間帯別職員配置表」として事業所必須の「見守り制度」となっている。	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)

【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの実施

サービスの実施

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

個別の利用者に対する支援計画は担当する班に所属する2名の生活指導員が作成しサービス実施の根拠としているが、正式には月1回開催される支援会議において承認されることになる。
 会話による意思疎通が難しい利用者も少なくないが、表情、語調、身振り手振りなど言葉以外の手段も使って職員がわかりやすく話しかけ、コミュニケーションを取る努力をしている。

評点	A
標準項目	 個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

日中活動メニューが豊富に取り入れられ、多様な個性をもった利用者それぞれに応じた活動が用意されている。作業活動が6種(受注作業・公園清掃・手織り作業・農園作業・自主生産活動・園芸作業)、グループ活動が11種(調理・手話音楽・音楽・いたるバンド・パソコン・創作・水泳・エクササイズ・工芸・ウォーキング・リラクセーション)行われているほか、年間行事は多い。

日中活動については本人や家族等から年1回アンケートをとり、その中から希望を抽出して実施できるような仕組みにしている。前回のアンケートはグループ活動に関しての利用者意向・要望を知るために平成17年3月に実施した。

評点	A
標準項目	 日中活動メニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	 利用者が活動しやすい環境を整えている
	 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫してい

講 評

家庭で偏食が日常化している利用者が多いので、野菜を細かく刻みミートソースやマーボー豆腐、生姜焼きのたれ等に混ぜ込んで、野菜を食べている意識無く口に入るように努力している。また、食材の種類を多く摂取するように努めて献立を決めている。

平成16年度および17年度、利用者の嗜好調査を行った。その中で家庭での食事の内容も詳細に記載されており、家庭での生活状況を把握することで施設での献立に活かすことを意図したものである。

食事に際して利用者とトラブルが起こる可能性のある特定の利用者について出来る限りトラブルの発生が無いように配慮している。そのため、例えば、食堂は1階にあるが、時間差を設ける、或いは1階の他の部屋や2階、3階で分散して食べるなどである。

当事業所での外出行事（お花見、運動会、プール日など）の時には特別メニューによる弁当を提供している。月1回の誕生会では利用者のリクエストによる特別メニューを提供するほか、年に4回のバイキングなども実施している。

評点	A ⁺	
標準項目	○	利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	○	利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	○	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み	・食堂は対面型カウンター方式を採用しており、一部危険な場面もあるかと危惧されるが、職員と利用者との家庭的な一体感を作ることに成功している。なお、利用者の食事中はカウンター内で食器の洗浄を行わず、調理スタッフも共にテーブルで食事を取ることで、利用者に落ち着きが得られるように配慮している。また、管理栄養士は利用者を対象にした栄養指導を目指して小冊子「レッツ・クッキング」を作成して家族へ配布し、栄養のバランスのとれた調理方法を提案している。	

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

グループ分けした各班の職員配置が複数になり職員間の連携がとりやすく、利用者のその日の体調に応じたケアがしやすくなっている。職員自らが作り上げたマニュアルの中に職員の想いが織り込まれ、指導的にならないようにして専門的支援、援助を重んじている。

利用者が一人で通所できるようになることが最初の関門となっているので、職員は利用者の行き帰りに駅改札に張り付いて安全の見守りを行っている。

評点	A ⁺	
標準項目	○	利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○	必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み	・職員は必要な場合に特定の利用者に対して1対1の支援が直ちに取れるようにチーム内で連絡体制を取っている。「今、自分は○○さんと1対1で対応するから、他の人はみてね」という具合に、職員は臨機応変に1対1、あるいは1対複数に、と切り替えて活動している。	

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

月1回体重を測定し個人ケース記録に記載するほか家族等への連絡帳に健康状態を記録している。
 服薬はてんかんの利用者が多いため、てんかんに対応する薬剤、成人病や肥満に対応する薬剤が多い。薬剤がどのような疾病のために処方されたものか、誤って飲んだ場合の危険度について専門職から得た注意事項が個人ケース記録に追記されており職員による注意深い対応が行われている。

薬剤は事務所のロッカーに預かり、早出の職員が利用者個人別ボックスに薬剤を移し、昼食後服薬したかどうかをチェックシートに記載している。
 臨時に服用する薬剤についてはより正確な管理法を取ることを検討している。

評点	A	
標準項目	☐	健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
	☐	必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
	☐	服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
	☐	利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

当センターでは活動に多数のプログラムを用意し、利用者の特性や嗜好を考慮して多様な体験ができるようにしている。グループは11クラブ、毎月の行事は誕生会を含み年間24回、レクリエーション活動は木曜日を充て、作業活動は公園清掃など6種、月2回土曜日に行われる任意活動(ハイキング)など多数が用意されている。

行事では社会見学など外出行事、宿泊旅行では臨海合宿・冬合宿・慰安旅行、地域との交流に役立っている行事では「いたるまつり」、「チャリティーバザー」、「もちつき会」、「クリスマス会」、「夏休み作業体験」などがある。合宿や慰安旅行など宿泊行事は厨房職員も含む全員参加の行事となっており、職員と利用者との意思の疎通に一役買っている。活動については利用者・家族からアンケートをとって実施しているほか、慰安旅行ではボランティアや外部の参加者も認め平成17年秋の旅行では約70名がバス2台で参加している。

毎日の清掃は一日2回、午前と午後職員が行っているが、床が水分で滑るようなことが無いよう、随時清潔に努めている。施設の共用空間である玄関ホールは混雑し易く、いささか雑然とした状況にあるのは、物理的に狭いことが原因であり直ちに解消するという訳には行かない。

評点	A	
標準項目	☐	行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
	☐	室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
	☐	日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にし見直しをしている
	☐	利用者等が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
	☐	行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

家族懇談会は原則として年3回、班ごとの家族者会（グループ懇談会）は年2回実施を原則としている。これらの会とおした家族等との連携により、利用者の意思を確認してその意向に基づいた対応ができるようにしている。

家族等と施設間の意思疎通に関しては連絡帳や電話を利用して随時行われている。また、必要に応じて家族等への情報提供を配布物「お知らせ」により行っている。

評点	A	
標準項目		家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
		利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
		必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

当阿佐谷生活園自体が「いたるまつり」や「チャリティーバザー」を通して情報の発信を行い、地域との連携が得られるように取り組みを行っている。とくに、「チャリティーバザー」は長年続いた一大イベントとして地域に知られるようになって、地域の人々の協力が得られるようになっている。こうした行事は一朝一夕にはなし得ないプラスの歴史である。

杉並区の障害者対策は他の区よりも手厚く実施している。区の障害者相談窓口を「カラフル」と名づけ、必要な支援が得られるようにネットワークを形成している。誰かと出かけたい、仕事がしたい、一人暮らしがしたいなど様々な相談に応じており当施設もそのネットワークの輪に参加している。また、杉並区で発行している「障害の手引き」は障害に関係するすべてを網羅しており、「当事者や関係者のための電話帳」として機能している。

評点	A ⁺	
標準項目		地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
		必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み	・当施設が開催する「チャリティーバザー」は今年で30年目となるが、一大イベントとして知られている。地域の人々は日頃からバザーに提供する商品を集め期待して寄付するその日を待っている。こうした行事は一朝一夕にはなし得ないプラスの歴史である。さらに平成16年の障害者のためのスペシャル・オリンピックにおいては、多数の職員が実行委員会に参加し、利用者による聖火ランでは区内の商店街を走るなどにより、その後の地域との交流に多大な成果が得られている。	

[このページの一番上へ](#)